

林 祥太郎 選手・横山 智也 選手の紹介



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号

20 GK

はやし しょうたろう

林 祥太郎 選手

(23歳)

ホームタウン応援大使

瑞穂市

ニックネーム

しょうたろう

大阪府岸和田市出身、両親と2歳上の兄と双子の弟と5人家族で育った。3兄弟でもサッカーをしているのは自分だけで、家族は専ら応援してくれている。

岸和田市立城内小学校1年生からサッカーを始めて、5年生の時にゴールキーパーとして初めて試合に出場した。岸城中学校時代と大阪学芸高校時代はセレッソ大阪の下部組織U-15とU-18に加入し、高校1年生で既に185cmの身長に達して長身を生かして不動のゴールキーパーとしてさらに技術を磨いた。セレッソ大阪の下部組織時代の同年選手でゴールキーパーは自分だけで、2人は海外でプレーしており、4人はJ1やJ2で現在活躍中である。今も連絡を取っては刺激をうけて、切磋琢磨する関係性を継続している。東京国際大学に進学して、初めてアパートでの一人暮らしが始まった。得意料理はカレーでこれさえあれば何とかなる程カレーが大好きである。FC岐阜に加入早々、1月末からのキャンプにおいて、残念ながら右母指基節骨骨折した。2月上旬に手術を終え、4月末まで治療に掛かって、リハビリも含め約三か月半練習できない日が続いた。今では、練習に復帰し、最近ではコンディションも上がってきたと感じている。座右の銘の『初心忘るべからず』を常に心がけ、調子のよい時も悪い時も、有頂天になったり落ち込んでしまうことなく、努力や苦勞の過程を思い起こして自らを激励している。最近では読書をし、自己啓発本を読んでマインドセットの訓練をしています。

目標とする選手は、スイス出身のヤン・ゾマー選手で1試合で19セーブの記録を打ち立てた名ゴールキーパーである。FC岐阜の練習レベルや強度は高く、素晴らしい選手達から細やかなアドバイスもあって、成長には大変役に立っている。

心配を掛けた母親へのプレゼントは、試合に出て活躍するまでのお預けと心に決めて、その日を楽しみにより一層の練習に励んでいくと語る祥太郎であった。これからの彼の活躍にご期待ください。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号

27 MF

よこやま ともや

横山 智也 選手

(23歳)

ホームタウン応援大使

山県市

ニックネーム

よこ、ともや

岐阜県山県市出身の横山選手が念願のFC岐阜からプロスタートを切った。幼少から大学まで岐阜県で育ち、伊自良南小学校時代の2年生の時に、当時100名を超える選手が在籍していた高富サッカー少年団でサッカーを始めた。小学校6年生の時に岐阜県大会で優勝し、全国大会に出場したことで頭角を現した。伊自良中学校時代はFC岐阜アカデミーのU-15に所属しており、2年生(14歳)の時に全国からJリーグ選抜選手に選ばれて、夏休み期間の2週間をスウェーデンのイエーボリで開催された国際大会に出場した。様々な国から集まったチームと戦い、優勝を飾ったのは素晴らしい体験となった。更に3年生(15歳)の時に再びJリーグ選抜選手に選ばれて、今度はブラジル、リオデジャネイロでのブラジル大会に参加することが出来た。中学の2年3年の夏を連続して国際大会に参加でき、レベルの高い選手達から大きな刺激を受ける良い体験となった。そして2度の国際大会で約30名の選抜選手達と寝食を共にして親しい友人になり、そのほぼ全員がJ1からJ3のチームに進んで今も相互にコンタクト出来ていることが宝物である。彼の座右の銘は元日本代表選手の本田圭佑氏の『成功にとらわれるな、成長にとらわれる』であり、「目先の結果だけを気にせず、前に進むために成功しようが失敗しようが気にせずに、自分の道を進む」と言い、夢はFC岐阜をJ2、J1へと押し上げて、海外でも活躍することである。23歳とは思えない力強い意志のある言葉に感心した。

岐阜総合学園高校時代はFC岐阜U-18に加入した。岐阜協立大学サッカー部時代も活躍してきたが、最近の嬉しかったことは、昨年の栃木国体に岐阜選抜チームのメンバーとして、現在FC岐阜セカンドに所属する選手達と一緒に参加できたことだ。そして準優勝の成績を収められたことである。

今シーズンのリーグ戦出場は現在4試合であるが、天皇杯の2回戦でJ2の清水エスパルスに2対1で勝ち、3回戦ではJ1のアビスパ福岡を相手に延長戦まで戦った。今後の出場機会を目指して、切磋琢磨の日々である。三兄妹の真ん中で、静かでマイペースな"ともや"のこれからの活躍にご期待下さい。